

宮田直彦のエリオット波動レポート

マーケット見通し(短期アップデート) 12 月 19 日 8:55AM 更新

[日経平均]

【当面の想定レンジ】 46,000～52,500 円

[NY ダウ・S&P500]

【当面の想定レンジ】 (NY ダウ) 47,000～50,000 ドル
(S&P500) 6500～7000

[ナスダック]

【当面の想定レンジ】 (ナスダック 100) 23,500～26,200
(ナスダック総合) 21,500～24,000

[米ドル/円]

【当面の想定レンジ】 140.000～158.500 円

[ドルインデックス(ドル指数)]

【当面の想定レンジ】 95.000～102.000

エリオット波動とは

株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。相場は5つの上昇波と3つの下降波（合計8つの波）で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

日経平均



【週足 エリオット波動分析】

今年 4 月 7 日安値(30,792.74 円)以来およそ 7 カ月間にわたって続いたインターミディエイト級第(5)波の上昇は、52,636 円(11/4)を以て終了したとみられます。それと同時に、コロナショック底(16,358.19 円、20 年 3 月)から 5 年 8 カ月にわたるプライマリー第③波も終了したと思われます。

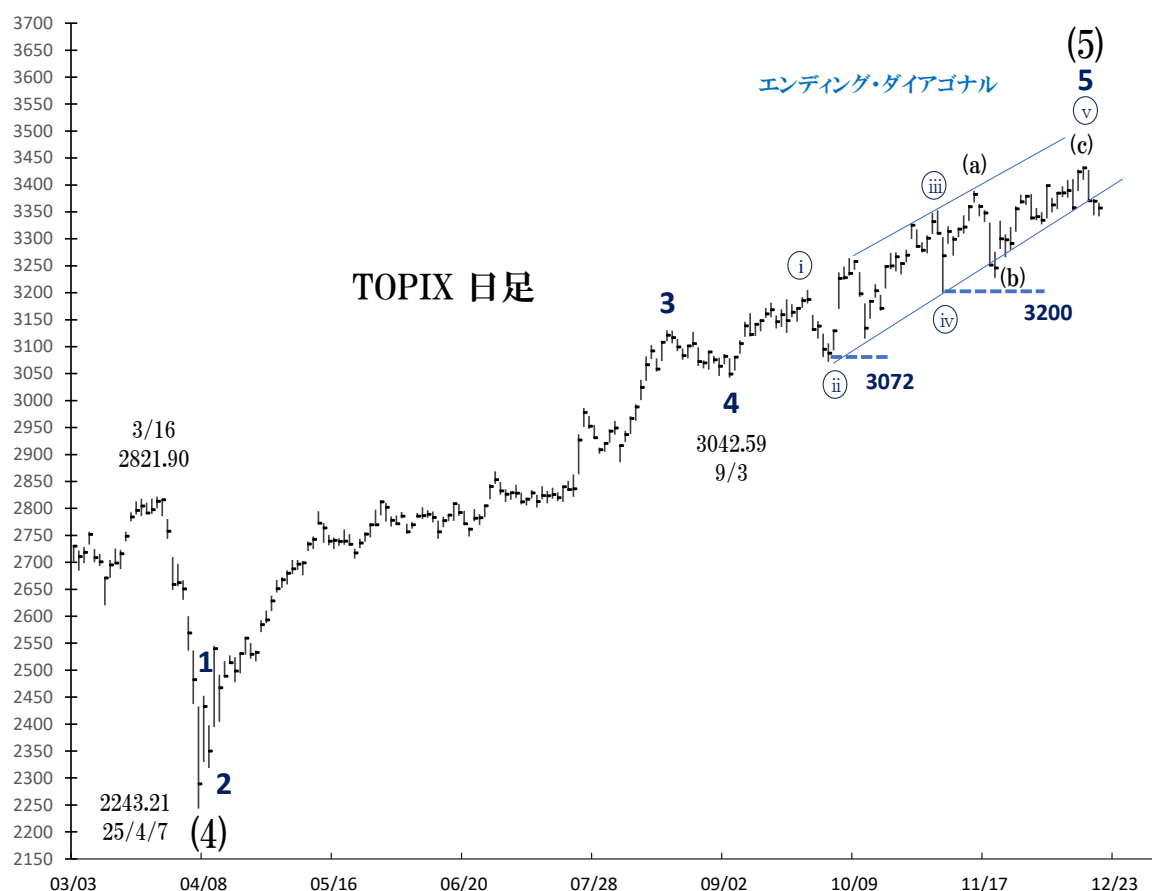
いまはプライマリー第④波調整の初期段階に当たっており、この見方は 48,235 円を下回ることにより強まります。おそらく 2026 年 2 月頃(※)へ向けての弱基調が続くでしょう。

(※)週次サイクルの間隔(安値から安値)は 42 週程度です。これによると、現行サイクルの終了は、今年 4 月 7 週から 42 週程度を経過する 2026 年 2 月頃と想定できます。

プライマリー第②波は 18 年 10 月高値(24,448 円)から 20 年 3 月安値(16,358 円)まで、17 カ月間で通算 33%下げました。パターンは「ジグザグ」でした。

「オルタネーション」により、第④波はおそらく「トライアングル」「フラット」など保ち合いパターンを、今後数年間にわたって形成する可能性があります。

④波の下値レンジに相応しいのは、第③波中第(4)波領域[42,426 円～30,792 円]です。この領域は、11 月高値から 33%調整後の水準(35,266 円)を含みます。



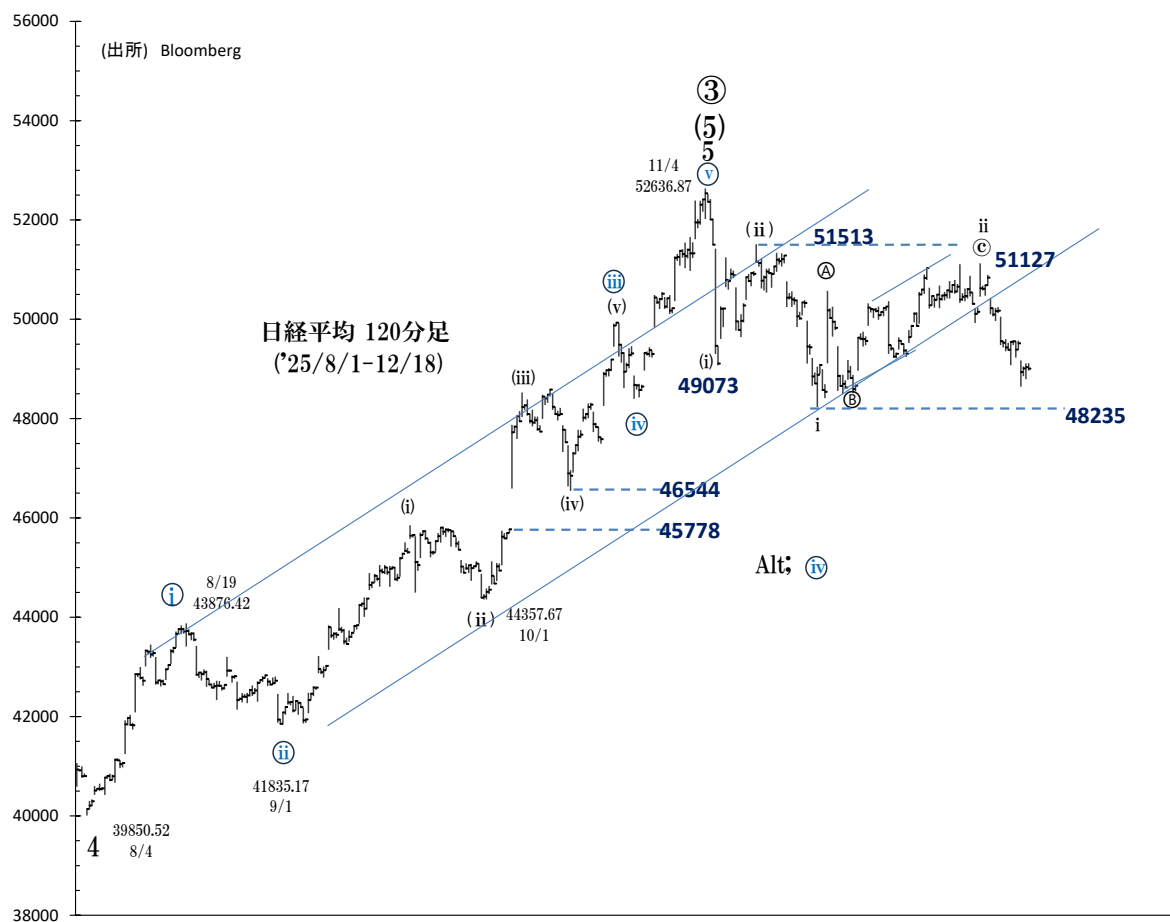
[TOPIX]

しっかりの展開が続いていますが、12月15日の高値(3434)を以て、4月以来の強気トレンドは完了した可能性があります。

9月安値(3042)からの「エンディング・ダイアゴナル」は、重要な天井パターンです。12月18日には目先の注目節目(3352、12/11 安値)を一時下回りました。

実際足元の25日MA水準が偶々3352であり、節目としての注目度はより高いとみられます。終値で25日MAを下回ることが、下落トレンド開始の合図とみてよさそうです。

ひとたび下向きにトレンドが転換すれば、その時点から1カ月～3カ月の内に3042(ダイアゴナル始点)へ下落する展開になっておかしくないでしょう。



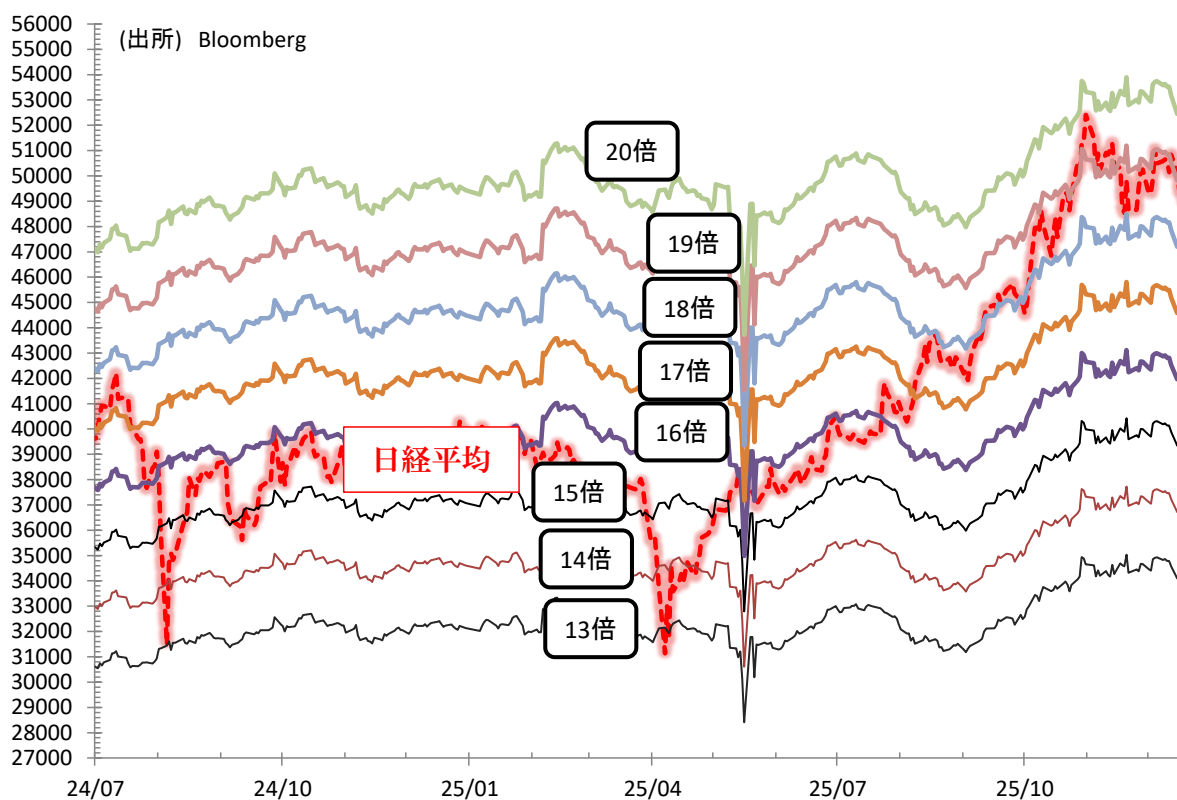
[日経平均]

12月18日は一時48,643円まで下げ、48,235円(11/19安値)が視野に入ってきました。

足元の下落は、(iii)-iii 波(サード・オブ・サード)の可能性がありますが、そうであれば日経平均は年内にも48,235円を下回るでしょう。この場合、10月初旬のギャップ[45,778円～46,544円]を早々に埋めに行く展開となるでしょう。

[予想 PER 別の日経平均水準]

12月18日の日経平均予想 PER は 18.69 倍、予想 EPS は 2621 円です。過去最高の予想 EPS は 2694 円(11/20)です。



NY ダウ・S&P500



【NY ダウ 日足エリオット波動分析】

12月12日のNYダウ最高値(48,886ドル)は、10月29日に最高値を付けたS&P500、ナスダック100からは確認されていません。。このような「未確認」は、強気相場終了を先取りする現象として注目に値します。

45,728ドル(11/20 安値)からの上昇は、4月以来の上昇第(5)波における最終波・第5波とカウントされます。まだ上昇が続くなら、5万ドルを試すこともありそうです。第1波と第5波が同じ長さになる水準は[49,895ドル]です。

一方、47,462ドル(12/10 安値)を下回ると上昇トレンドの変調が示唆されるでしょう。

さらに11月25日-26日のギャップ[47,182ドル-47,196ドル]を下回ると、強気相場終了が合図されます。



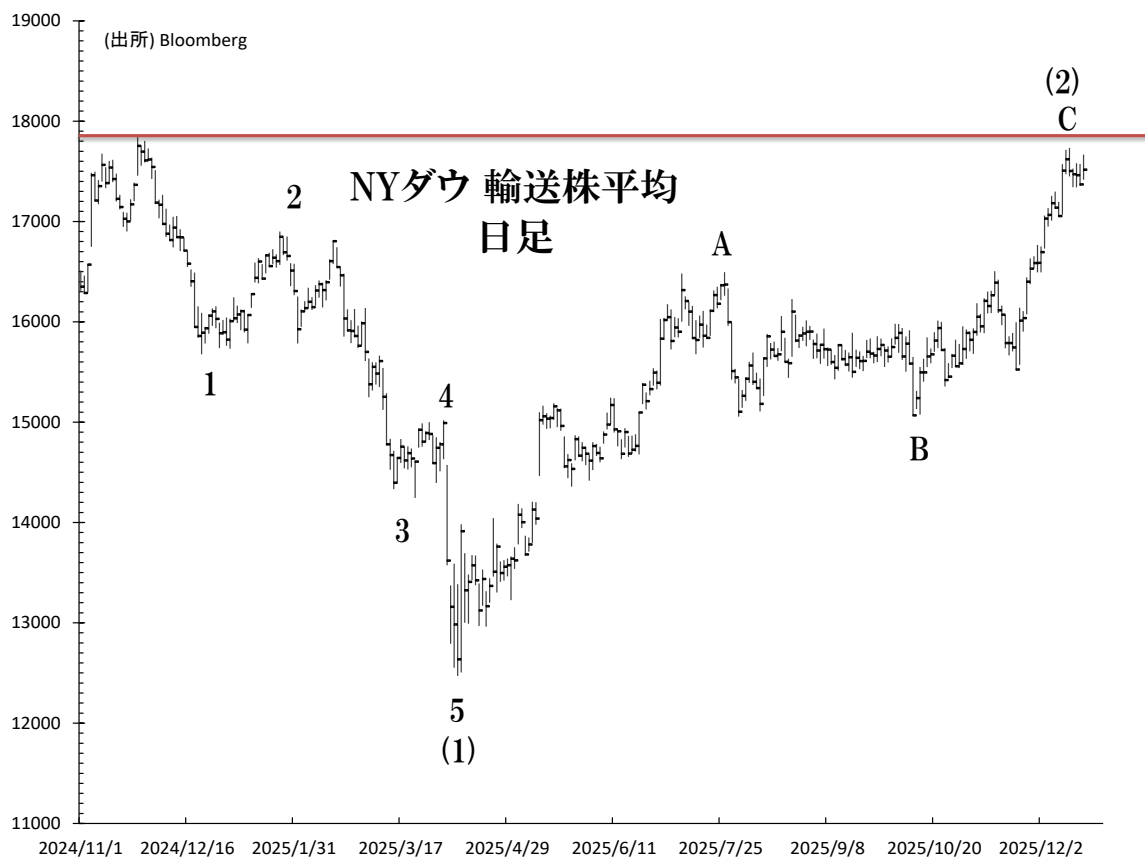
【S&P500 日足 エリオット波動分析】

6920(10/29 高値)を以て強気相場は終了した可能性があります。

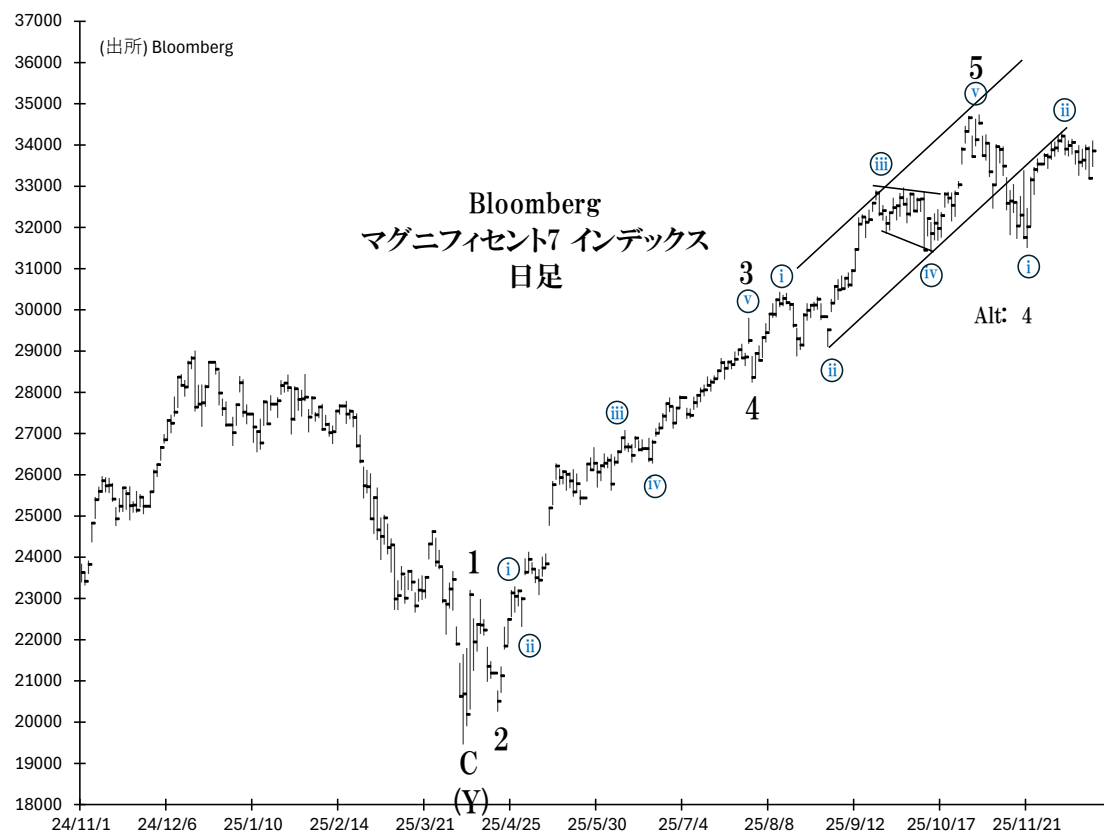
6521(11/21 安値)はヘッド・アンド・ショルダーズのネックラインであり、それを割るとリスクオフ局面が本格化しそうです。この場合、当面は 200 日 MA(6236)への下値試しがありそうです。

一方 6920 を上回ると、6521 を起点に第(5)波-第 5 波による上昇に入った、という風に波動カウントを改めます。それを以て強気相場は終了することになります。

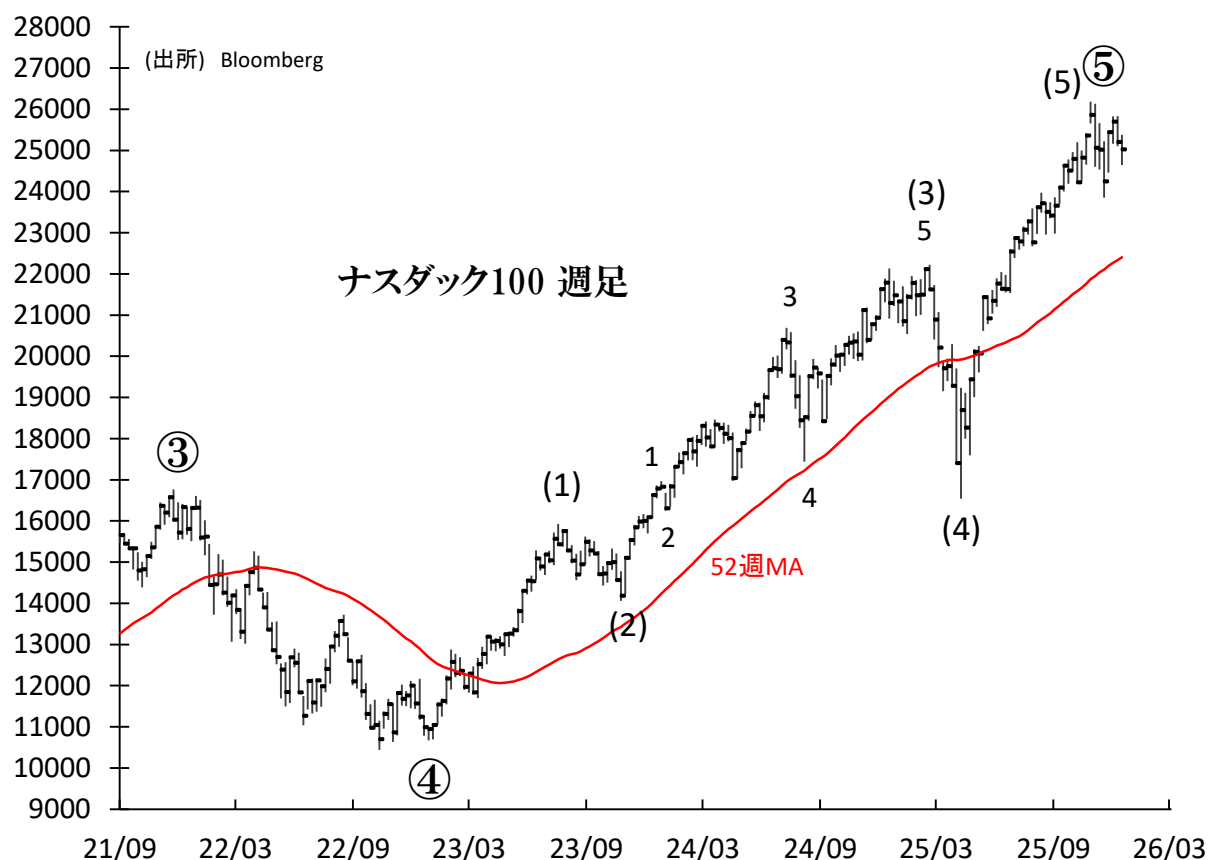
[ダウ輸送株平均] ダブル・トップを付けるか



[マグニフィセント 7] 以前のサポートラインが戻り上限となるか?



ナスダック 100



【ナスダック 100 週足 エリオット波動分析】

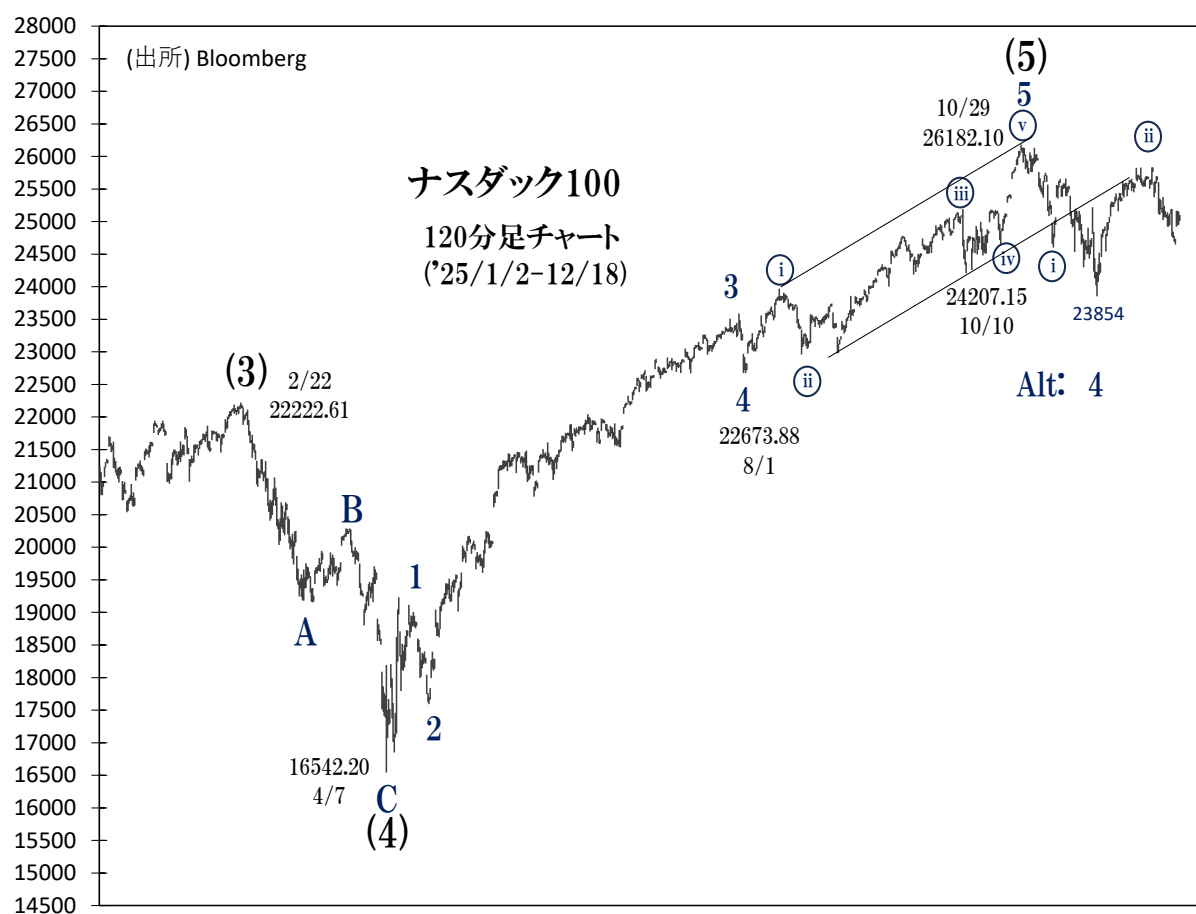
（プリファード・カウント）

4 月安値(16,542)からの上昇はインターミディエイト級第(5)波の上昇に相当し、それは 26,182(10/29 高値)を以て終わったかもしれません。インターミディエイト級第(5)波の完了は、2002 年 10 月底を起点とするプライマリー級の 5 波動(①波~⑤波)の完了も意味します。

調整局面が始まったのであれば、それは今後おそらく数年間続く、長く大きなものになるでしょう。

（オルタナティブ・カウント）

4 月からの上昇は「(ランニング)トライアングル」中 B 波であり、遠からず C 波の下落に入る見通しです。これによると今後の調整規模は、想定されるシナリオではもっとも小さいと想定されますが、それでも高値からの下げ率は 20%~30%クラスになると思われます。



【ナスダック 100 時間足 エリオット波動分析】

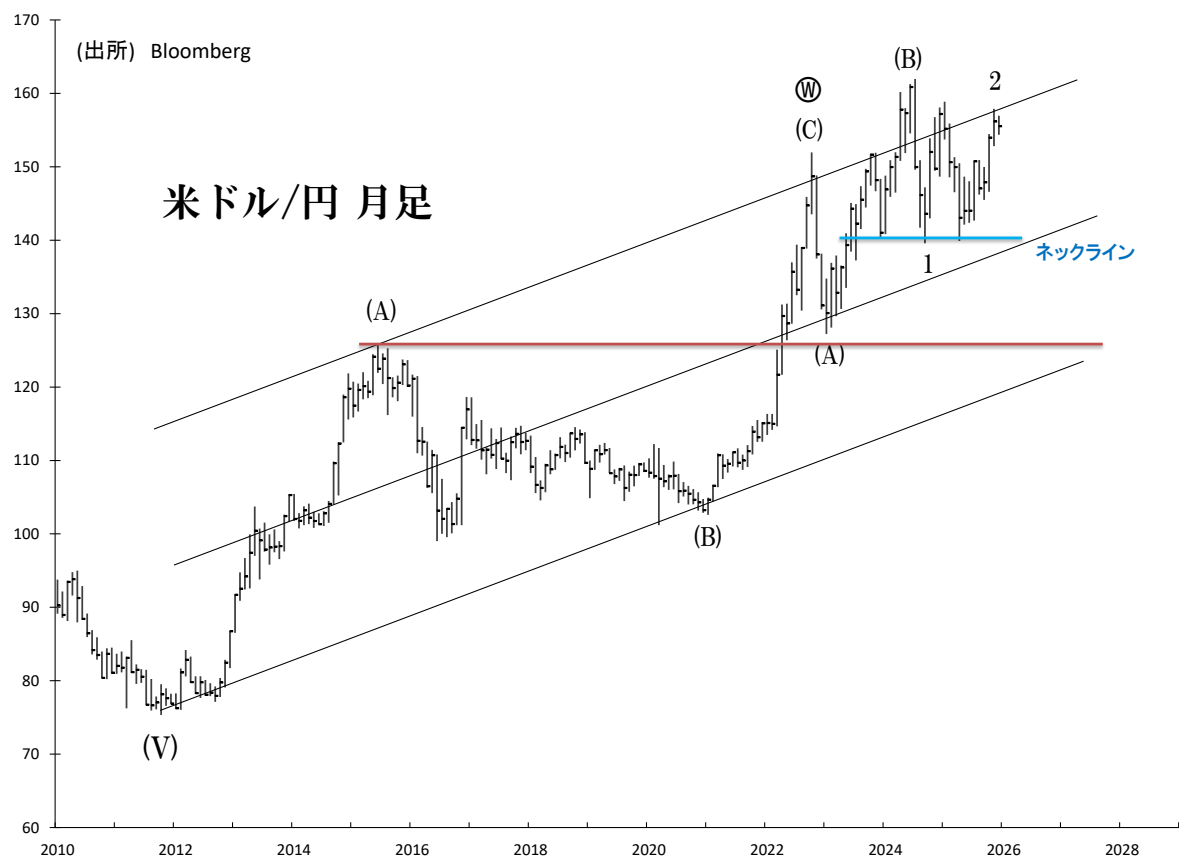
22,673(8/1 安値)からのマイナー級第 5 波は 26,182(10/29 高値)で完成した可能性が高い、とみています。引き続き本格的なリスクオフ局面(弱気相場)への備えが必要です。

26,182 からの下落におけるマル ii 波「(エクспанディッド)フラット」は、25,835(12/11 高値)を以て終わったかもしれません。この見方が正しければ、目先のにも 23,854 を下回る急落が起きておかしくないでしょう。

ひとたび本格的なリスクオフ局面に入れば、[22,499~20,224]を目指し下落するでしょう。このレンジは、4 月からの上昇に対し 38.2%~61.8%押しです。

オルタナティブ・カウントは、23,854(11/21 安値)から第 5 波による上昇が進行中というものです。この場合、ナスダック 100 はもう一度、最高値を更新するチャンスがあります。その動きを以て、4 月からのラリーは完成することになるでしょう。

米ドル/円



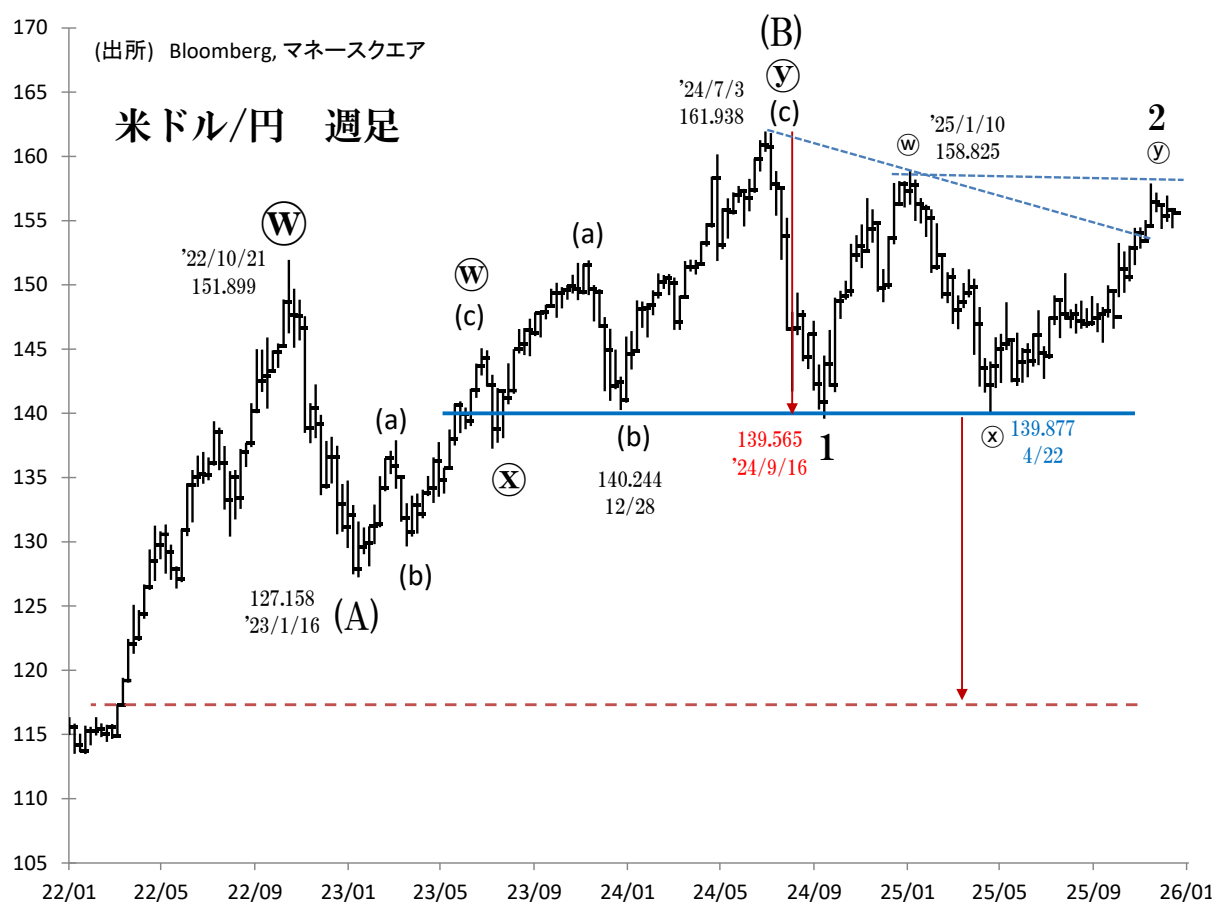
【月足・エリオット波動分析】

16 年半サイクルによれば、米ドル/円(ドル/円)は 2028 年 4 月頃まで「円高の時間帯」が続きます。この時間帯においてドル/円の上値は抑えられるでしょう。筆者は 28 年 4 月頃までのどこかの時点で、1 ドル = 125 円 ~ 120 円へのドル安・円高になる可能性をみています。

11 月は 157.849 円まで上昇しましたが、この動きによりドル/円は長期チャネル上限に達し、併せて昨年の円買い介入ゾーン(157 円 ~ 161 円)への突入をはたしました。

日米実質金利差から導かれるドル/円の水準は、現在 1 ドル = 140 円程度です(後述)。足元の日本円は金利差からみた妥当な水準よりも過小評価されています。そのような歪みはいずれ修正される(ドル安・円高方向への)可能性が高いでしょう。

ドル/円の上昇は既に限界を迎えたか、迎つつあります。今後はドル安・円高トレンドへの転換が、いつ起きてもおかしくありません。



【週足 エリオット波動分析】

24 年 9 月安値(139.565 円)から、第 2 波によるリバウンド局面とみています。この第 2 波は一見すると「フラット」(3-3-5)ですが、厳密には「ダブル・スリー」(W-X-Y)というパターンです。

4 月以来のドル高・円安(Y)波は、既に終了したかしつつあり、まもなく第 3 波によるドル安・円高が始まる見込みです。

第 3 波の下げ幅は、第 1 波の下げ幅の 1.618 倍程度になるでしょう。この前提から、第 3 波の目標値として 120 円台前半が導かれます。



【日足 エリオット波動分析】

第 2 波の内部波動構造は、ジグザグ(w)-トライアングル(x)-ジグザグ(y)です。この第 2 波は 157.849 円 (11/20)を以て終わったかもしれません。

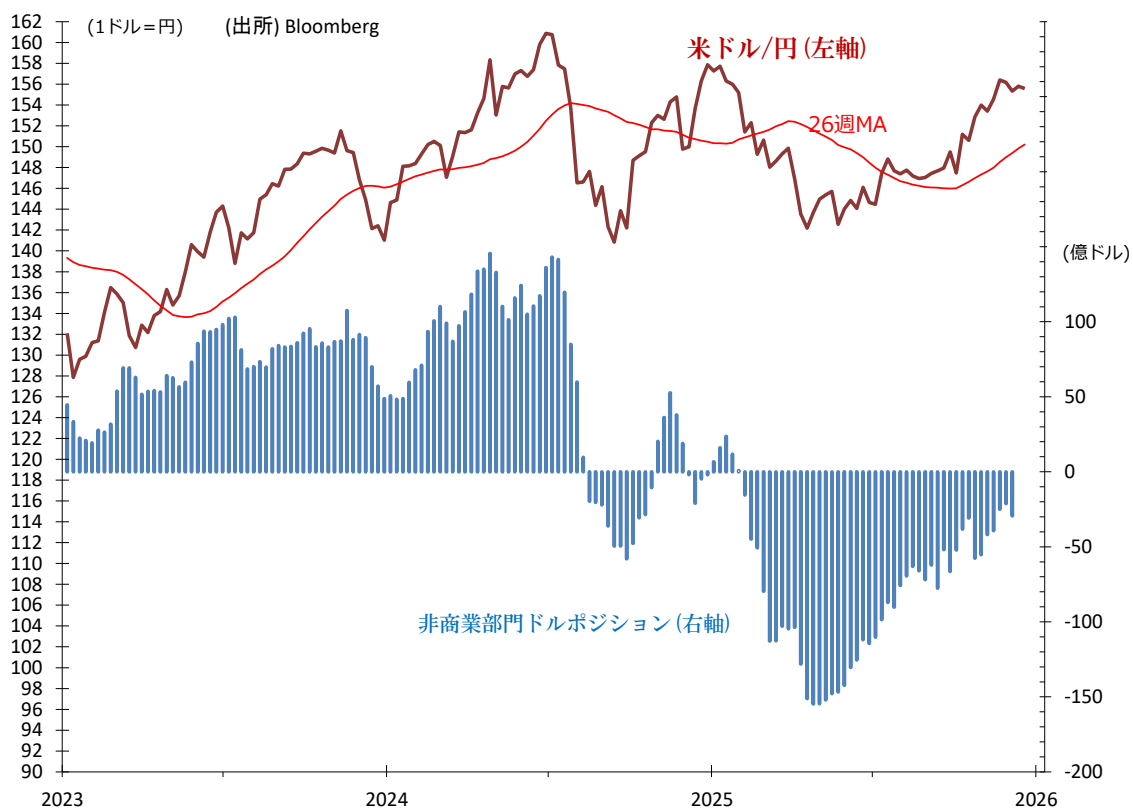
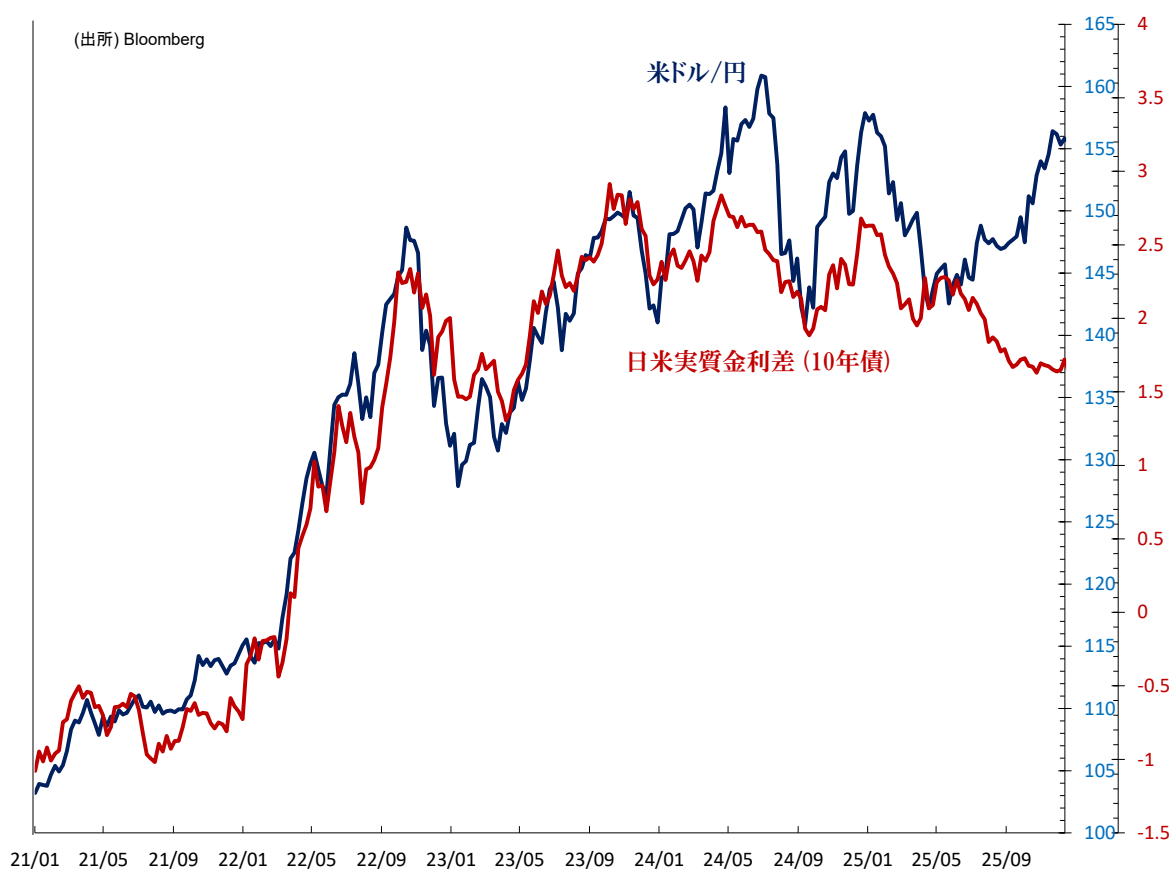
154.334 円を割るとサポートラインからの下放れが確認され、次は 152.811 円を試すでしょう。

金利差からのドル/円推計値

足元、日米実質金利差からのドル/円推計値は[140.132 円]です。

投機筋の円買い持ち高は 5 週連続で縮小 (2025 年 12 月 2 日時点)

IMM 通貨先物市場で投機筋(非商業部門)の円買い持ち高は 6 週ぶりに拡大。前週の 21.2 億ドルから 29.3 億ドルになりました。



ドルインデックス (ドル指数)

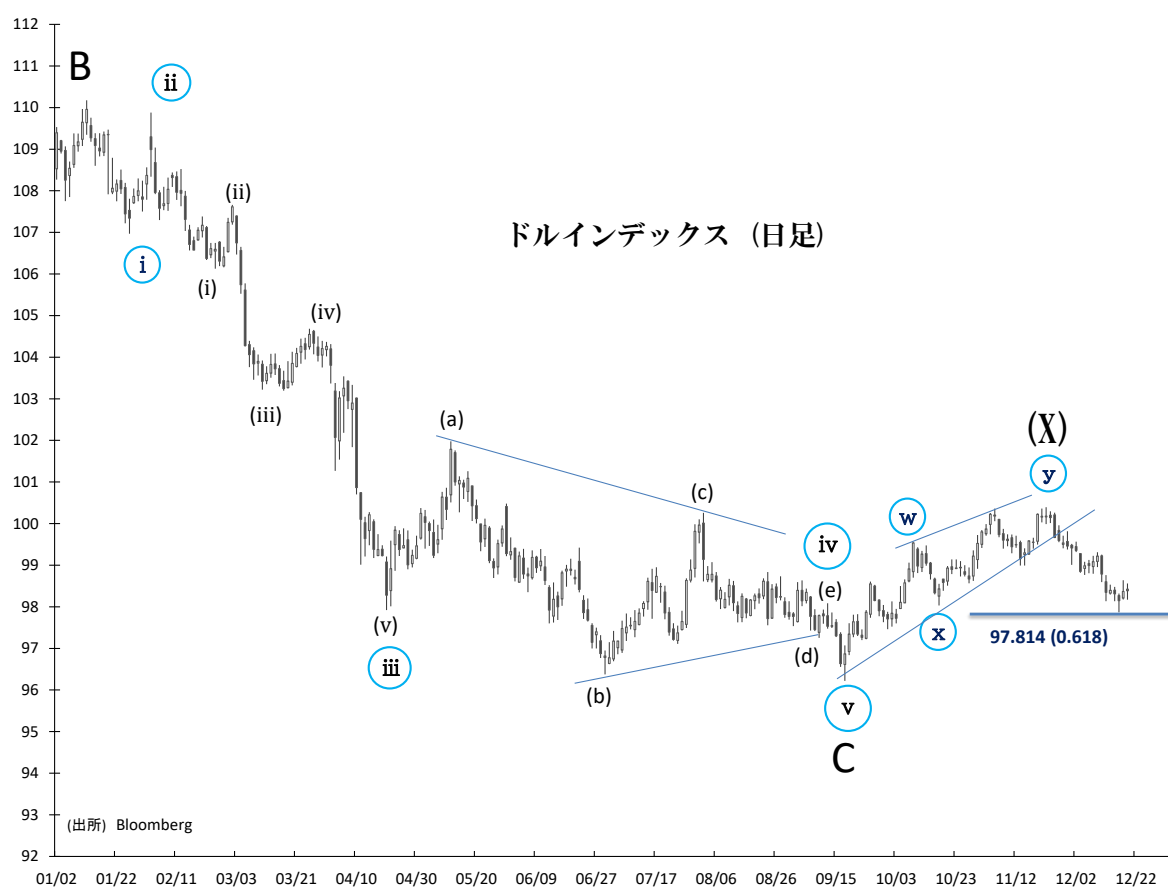


【エリオット波動分析】

当初想定していたスケールより一回りは小さいですが、96.218(9/17)からのリバウンド(X)波は、100.935(11/21)を以て終了した可能性があります。この見方は、97.814(61.8%押し水準)を終値で下回ると強化されます。12月16日には一時97.869まで下げ、節目が試されています。

もしドル安トレンドが再開したのなら、当面は96.218を試す展開となるでしょう。

一方97.814を終値で維持しつつ100.935を上抜いたなら—そのハードルはかなり高くなりましたが—引き続き「101.550」「103.197」などを目指す展開となるでしょう。



※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できると思われる各種情報源から入手したものです。当社は、その正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもありますが、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差（スプレッド）があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率（為替リスク想定比率）を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率（為替リスク想定比率）は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10%です。

金融商品取引業 関東財務局長（金商）第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア
